コミュニティ・スクール新聞

発行所
藤中学区
学校運営協議会　事務局

繋がる思い

第72回『社会を明るくする運動』の標語優秀賞に藤枝中学の2年生・渡邉十雲君の作品が選ばれました。『**思いやり　優しい見守り　町づくり**』という標語です。渡邉君は毎日登校時に蓮華寺池前のスクランブル交差点を通って登校してきます。そこで交通指導やあいさつ運動などの見守り活動をしてくれている人々をイメージしてこの標語を考えついたそうです。いつも温かく声をかけてくれたりしてくれたりしている方々への感謝の気持ちを標語にしたそうです。優しさや思いやりのキャッチボールなのだと感じます。

地域学校協働本部

10月27日(木)、生涯学習センターを会場にスクールサポーターズクラブコーディネーター連絡会が開催されました。スクールサポートコーディネーターは地域住民等と学校との連絡調整等を行うコーディネーターです。地域には様々な人材がおり、その方々のおカをお借りして子どもたちの成長のお手伝いをしていただくのと同時に、子どもたちと触れ合うことでサポーター自身にもエネルギーをもらえるようなネットワーク、それが地域学校協働本部です。

茶々の方々が授業のお手伝い

10月28日(金)、8名のスクールサポーターズクラブの方々が藤枝中央小学校の5年1組の家庭科の授業のサポートに入りました。エプロンを作る授業ですが、まち針を使ったり仮縫いをしたりする作業は苦手な児童もおり、8名のスタッフが児童の様子を見ながら丁寧に寄り添う姿が印象的でした。今後、ミシンを使用する場面でもサポートに入るそうです。エプロンを作るという作業を通して、子どもたちとサポーターの心がお互いに通い合っていくようでした。子どもたちにとっては、エプロン作りの作業を手伝ってもらうことは手段であり、色々な方々と触れ合うことに意義深さを感じました。

感動の拍手

10月29日(土)、藤枝中学校中庭に多数のボランティアが集まりました。藤枝中学校のPTA事務局が呼びかけて中庭にあるビオトープの整備をするために募集したボランティアの皆さんです。当日は保護者、生徒、職員など多くの方々がビオトープ周辺の草刈りをしてくれたり、ビオトープに繁殖しすぎた藻の撤去をしてくれたりしました。また、ビオトープ周辺に様々な石を配置するなど、作業前と作業後では別の場所のような違いがありました。その光景に感動したボランティアの方々からは自然発生的に拍手が起こりました。ボランティア活動の本質の一部に触れることのできた有意義な時間を過ごすことが出来ました。

ふるさとの先達！

（株）松田商店　代表取締役

松田　真彦

私が藤中に通っていた頃、もう50年近く前のことですが、毎週木曜日にはクラブ活動が授業として有りました。生徒が自分で好きなクラブを選ぶことが出来ました。私は「石集めクラブ」に入りました。このクラブは、授業中でも自由に瀬戸川散策できる授業なので選んだような気がします。そんな気軽な気持ちで選んだ「石集めクラブ」でしたが、瀬戸川は、「奇石」としては日本全国でも有数の河川であることを習い、瀬戸川の価値を知りました。当社（真茶園）の旧宅にある中庭は100%瀬戸川の石が大小敷き詰められています。それを知ってから、自慢の中庭に見事変身！知る人ぞ知る瀬戸川の魅力が、我が家に有ることは先祖様への感謝の念が湧いてきます。